



# 岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

新しい価値観・世界観にたった小学校環境教育の体系化とその教材開発に関する研究

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2008-02-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 関根, 清 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12099/51">http://hdl.handle.net/20.500.12099/51</a>

## ま え が き

研究代表者

関 根 清

この報告書は、平成8、9年度の文部省科学研究費〔基盤研究(C)(2)〕、課題番号08680281、代表 関根 清、「新しい価値観・世界観にたった小学校環境教育の体系化とその教材開発に関する研究」による成果をまとめたものである。

今日ほど、学校教育における環境教育の必要性が、問われている時期はないだろう。これも偏に、われわれの世代がもとめてやまなかった、より利便性を追求した、より高い文明生活への願望に培われた行為の結果の「つけ」に対する、地球環境の保全のための教育方針の現れであり、換言すれば、自業自得の結果の代償として、次世代への地球環境の保全のための努力に向けての教育効果に期待したい願望から生まれた教育方針であると位置づけられるだろう。

地球の歴史は46億年にわたるが、その最も新しい地質時代に、人類が生物圏の主役を演ずる第四紀、約200万年が存在する。この第四紀は気候変動の激しい時期でもあり、氷期と間氷期とが交互に繰り返されてきた時期であった。それ故に、第四紀は自然環境の激変した時期といえる。これに加えて、最近の人類の活動はめざましく、高水準の文明生活を維持するための手段であったとはいえ、地球的規模で、その環境を激変させてしまう結果をもたらした。即ち、産業革命以後の人為的要因による環境変化の速度は、それ以前の速度の比ではなく、更に、最近の化石エネルギーや森林・その他の資源の大量消費にともなう環境の悪化は著しく、自業自得とはいうもののそのために、現在、人類の生活環境は悪化の一途にあるといえる。

このような環境の悪化も地球の発達史的観点にたてば、発達過程の一断面と捉えることもできる側面をもつが、人類生存の期間的観点にたてば、自業自得の結果で、人類そのものの存在に大きな影響を及ぼしかねない段階の環境下に進みつつあるといっても過言ではないだろう。すでに、地球的規模で、国家的規模で環境保全のための検討が開始されているのも事実であるが、更に一層の

地球環境の保全のための最大限の努力と英知を傾けなければならない。

これから人類がいかに努力しても、地球環境の復旧・保全には少なく見積もっても、 $10^4$ 年、 $10^5$ 年のオーダーの歳月が必要だろう。人の一生の時間を越えた歳月が必要不可欠となる。それ故に、世代間での、世代を超越した努力が不可欠となる。このためには教育の果たす役割は、計り知れなく大きく不可欠である。特に、学校教育の果たす役割は著しく大きいといえる。

このような観点にたって、本報は、社会科における環境学習とその教材開発についてまとめたものである。

平成10年3月